

## ライデン大学と 学術交流協定を更新し 新たに学生交流の覚書を締結



昨年11月8日、長崎大学とライデン大学は学術交流協定を更新し、併せて医学分野における長崎大学医学部及び長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(日本)とライデン大学メディカル・センター(オランダ)との間の学生交流に関する覚書並びに人文科学分野における長崎大学(日本)とライデン大学(オランダ)との間の学生交流に関する覚書を締結しました。これにより、ライデン大学と多文化社会学部の学生の相互派遣を行うことが可能になりました。今後オランダ特別コースの学生を中心に、ライデン大学へ数多くの学生が留学することが期待されます。また、ライデン大学から受け入れる学生との交流を通して、長崎大学で学習する学生の学びがより有意義なものになるでしょう。

## 入試問題提出例を ホームページで公開

多文化社会学部では入試の個別学力検査で実施する「批判的・論理的思考力テスト」の出題例を学部のホームページ上で公開しています。これは、このまったく新しい入試の実例を受験生に知らせるために作成したものです。このテストの正解はひとつではなく、出題者も予想していなかった新しい角度からの指摘にも高評価が与えられます。問題と解答例、採点の観点を確認することで、このテストの意図を理解することができるでしょう。

長崎大学ホームページ⇒左のコンテンツ「多文化社会学部出題例」をクリック⇒出題例・解答例・採点の観点をダウンロード

## 福岡や東京で 一般試験を実施

多文化社会学部では来年度の一般試験(前期日程 平成26年2月25日(火))に際して学外試験を実施します(グローバル社会コース、社会動態コース、共生文化コースの3コース)。東京会場は駿台予備校お茶の水校2号館、福岡会場は代々木ゼミナール福岡校です。東京/福岡会場での受験を希望される方は、出願時に申請してください。なお、入試科目に面接のあるオランダ特別コースは、長崎会場でのみの受験となります。詳しくは多文化社会学部のホームページをご覧ください。

コッなども伝授されました。また、二〇〇七年の「ヤング・グローバルリーダー」一五〇人にも選ばれた高島宏平氏と源島福己教授による「夢中」を見つけて世界の舞台に立つ」では、七年後の東京オリンピックに向けて日本ならではの企画をたてよ、という課題に取り組むことに。弁護士であり国際NGOで活躍する土井香苗氏と広瀬訓教授の講座では、紛争地域で軍事利用をされている学校を子どもたちの手に取り戻すための方法について、アイデアを出し合います。また、バングラデシユのグラミン銀行初の日本人



その後、四つのグループに分かれ、少人数のゼミへ。ここでは、それぞれの講師の先生方を中心に、長崎大学の教員、応援に駆け付けた現役長大生がサポートに入り、議論を深めていきます。基調講演を行った安河内氏と葉柳和則教授による「英語が苦手なキミを救う」とっておきの勉強法」では、英語による自己紹介の



年度の長崎大学に新設される学部「多文化社会学部」。昨年十月の文部科学省からの正式設置許可を受け、十月末と十二月に首都圏の高校生を対象とした(飛び出せ世界へ！) 高校生のためのグローバルリーダーゼミを東京で行いました。

十月のイベントの基調講演で登場したのは、メディアでもおなじみの東進ハイスクールの講師、安河内哲也氏。「どうして僕は外国に行かなければいけないのか？ まず、そのメリットをみんな考えてみよう」という問いかけで始まった安河内氏のスピーチは、スピード感あふれ、会場はほとんど引き込まれていきます。参加の高校生も手をあげ積極的に発言し、五十分があっという間に過ぎました。

# Topics 多文化社会学部

## 高校生のためのゼミを 東京で開催

長崎大学 多文化社会学部 検索  
長崎大学多文化社会学部設置準備室  
TEL.095-819-2030 FAX.095-819-2235  
ウェブhttp://www.hss.nagasaki-u.ac.jp  
メールhss\_info@ml.nagasaki-u.ac.jp

講師のみなさんは、いずれも世界の最前線で活躍するフロントランナー。彼らと身近に接し、直接言葉を交わすことのできる機会とあって、どのゼミでも受講生の積極的な参加姿勢が印象的でした。最後に交流会が開催され、世界で働くことを前向きにとらえる高校生たちが先生方と交えて熱く語り合う姿が、会場のいたるところで見られました。長崎大学が目指すグローバル人材育成の本質、その生の姿をしっかりと受け止めてもらえたようです。

コーデイネーターとなった税所篤快氏と増田研准教授による講座では、バングラデシユ人スタッフに対して班ごとに英語でプレゼンテーションを行いました。

安河内先生によるキーントスピーチ。「私のミッションは、この会場にいる人たち全員を外国に送り出すこと」と一言。会場には多文化社会学部の紹介パネルなども展示され、みなさん熱心に見入っていました。